

令和7年度第1回県立淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会における委員意見

【資料1】

| No. | 大分類 | 小分類 | 意見要旨 |
|-----|--------|-------------|--|
| 1 | 自然環境保全 | ゾーニング図の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・無料で利用できるエリアと有料で利用できるエリアのバランスについて議論すべきである。（小南委員） ・利活用の観点で、イベント利用できるエリアを分かりやすく明示した方が良いと思う。（坂田委員） ・民間活力で集客を高めるエリアと公共の公園として利用価値を高めるエリアのゾーニングが必要である。（澤田委員） ・自然環境保全の意味合いからゾーニングが必要である。（山本委員） ・自然環境を保全するエリアと集客を高めるエリアを一体的に考える必要がある。（高田会長） |
| 2 | | 合意形成ルールについて | <ul style="list-style-type: none"> ・樹木伐採に関するルール設定ではなく、生態系改変に関するルール設定に変更すべきである。（澤田委員） |
| 3 | | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境調査の実施方法が今後の課題である。（高田会長） ・外来種のナルトサワギクが発生するエリアもあり、その点にも注目し自然環境を守る必要がある。（山本委員） |
| 4 | 活性化 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・淡路島公園は島外から来られる方や、子育て世代の方が訪れ楽しめる公園に、あわじ石の寝屋緑地は地元の方や小学生が訪れ、社会教育的な体験を含めた色々な体験ができる公園にできればと思う。（伊東委員） ・公園の良さを子育て世代にも広めていきたいと思う。（関委員） ・自然環境保全と活性化が共存するための仕組みづくりが必要である。（高田会長） ・あわじ石の寝屋緑地は、島外の方がエコツーリズムとして淡路の自然を体感できる場所である。利用活性化を図るための一つの手立てとなると思う。（澤田委員） ・公園の集客数について、目標値を設定した方が良いと思う。（米山委員） |
| 5 | その他 | - | <ul style="list-style-type: none"> ・検討結果を今後の公園運営にしっかりと反映する必要がある。（山本委員） ・淡路島公園とあわじ石の寝屋緑地は異なる性質を持っているので、分けて検討したほうが良いと思う。（米山委員） |